

非認知能力を伸ばし、学び続ける人へ 太子町 学びコンパス



学びの羅針盤

第3号（子どもと関わる大人・保護者版）

「子どもを主語に」子どもが自ら学ぶ力を伸ばすために

太子町幼小中一貫で育む人像

認知能力の向上
(学力・体力等の向上)

学びに向かう力
豊かな人間性の
涵養

他者と
つながる

自分を
高める

自分と
向き合う

非認知能力の伸長

太子町では、子ども一人ひとりの可能性を最大限に伸ばすため、幼稚園から中学校までの学びと成長を連続的に結びつけた幼小中一貫教育を進めています。幼小中一貫教育では今後加速する社会の変化に対応する力として「非認知能力」に注目し、本町における教育活動の中心に位置づけております。

非認知能力を伸ばし、子どもが主体的に学びを進めるために、学校では授業や行事などを通して「子どもが決める・主体的に学ぶ」場面を設けています。今後、更に家庭と地域と学校が連携し確かな学力だけでなく、豊かな心と健やかな体を育みながら、「非認知能力」を育む取り組みを進めるために学びコンパスを発行いたしました。

非認知能力って？

「非認知能力」はテストなどによって客観的に測定（見える化）することができません。これを木に例えると普段は見えない「根」の部分に相当します。根が強固でなければ、木は成長できません。同様に、非認知能力という土台がしっかりしていなければ、具体的な学習の成果を獲得、維持することが難しくなります。

太子町で育む7つの非認知能力

他者とつながる系の力

- ▷ 協働する力
他者と一緒に目標達成のために協力する力
- ▷ 受け入れる力
相手の立場を理解し、相手のことを認める力
- ▷ 伝える力
自分の思いを発信する力



自分と向き合う系の力

- ▷ あきらめない力：粘り強く取り組む力
- ▷ 自分を調整する力：
思い通りいかないことがあっても気持ちを切り替える力



自分を高める系の力

- ▷ 目標・夢を持つ力：になりたい自分・理想を描く力
- ▷ 挑む力：何事も、まずやってみる力



子どもが自ら学ぶ力を伸ばすために

①子どもが自分で選ぶ・決める

大人は子ども本人が決める機会を多く用意してみましょう。小さな選択をいくつも積み重ねることで主体性だけでなく、判断力と決断力もついてきます。

②子どもが最後までやりとげる姿を見守る

安全に配慮しつつ、うまくいなくても子どもが最後までやり遂げる姿を大人は見守りましょう。責任をもって最後までやり遂げる経験を積むことが自信につながります。そして、子どもが自分で考えて、判断し、納得するまで活動を続けることが子どもの意欲を伸ばします。

③やり方を示す

子どもが興味を持ったことを大人が丁寧に言葉で説明するのではなく、やり方を示して子どもがそれを観察し、集中して自らできるようになります。子どもがやり方をよく見て体得していくプロセスが大切になります。



太子町非認知能力
アドバイザー
徳留宏紀さん

非認知能力は子どもが自ら意識することで伸びる力です。大人の子どもの意識づけと子どもの主体性が大切になります。大人の関わり方のヒントを少し紹介しました。

子どもの主体性を伸ばすために日常の中で良いところを見つけて伝える大切さ

子どもがいつのまにかできていることや、できて当たり前だと思っている行動に目を向けることで、良いところを見つけやすくなります。そして、見つけた良いところを子どもに伝えて意識付けをすることで、子ども自身の非認知能力を伸ばすことにつながります。

でも…良い面（価値ある姿）以外が気になってしまう…

例えば：ポジティブな見方に変えてみる！ リフレーミングする！

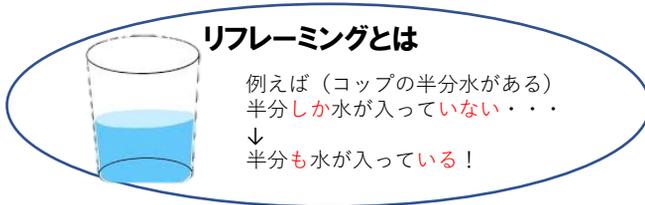
子どもとの距離の近さによって大人が子どもに「こうなってほしい」と思う要望が実際の子ども
の姿を上回ってしまい、子どものプラスの面が見えにくくなることがあります。

そのような時に見方を変えてみる（リフレーミング）することで、良い面、価値ある面が見えます。

集中力がない
ひっこみじあん
わがまま
我慢できない
飽きっぽい
気分屋さん
計画性がない
マイペース
だらしない
周りが見えない



様々なことに興味がある
慎重に物事を進められる
自分の意見が伝えられる
自分の気持ちに素直になれる
好奇心が旺盛
物事にこだわらない
行動力がある・応用力がある
自分の世界を持っている
おおらか・楽観的である
一つのこと集中できる



家庭・地域・学校が連携して

「子どもを主語に」子どもの主体性を伸ばすために

太子町立学校園では家庭・地域の協力をいただきながら「子どもを主語に」をキーワードに非認知能力の伸長の土台となる「主体性」を育むために、授業や行事などを通して「子どもが決める・主体的に学ぶ」場面をたくさん設けています。これからも家庭・学校・地域が連携して子どもを主語に、主体的に取り組む姿を育むためにご協力よろしくお願いします。

学びコンパスの活用について

学びの手引き・ヒント集を使って学びを習慣化！

それぞれの学年に合わせて学ぶことのポイントを具体的に示しています。自ら好きなことを見つけ、自ら学ぶ、そして学びを習慣化するためにご活用ください。



小学1～5学年



小学6年生版
学びコンパス



中学生版
学びコンパス

学び方を学ぶ
きっかけ・動機づけに

どうして学ぶのか？
考えてみるきっかけに

何からやったらいいのかわからない→学びのヒント集で学ぶきっかけづくり

「学びのヒント集・学びコンパスは右の二次元コードからもご覧いただくことができます」

